



ると米の一升買が多く炭の一晚分のバラ売り、卵の二個三個、梅干一錢式錢とか細い商売でした。夕方には馬方が馬を家の前に置き、焼酎を飲んで、酔っぱらって馬を曳き曳き帰りました。近所のおばあさんもその頃はまだお歯黒をした人がいました。

私の隣の山本さんの家は今よりもう少し道路より下った所にあり、農業をしながら、甘酒屋で、旅人がのどをうるおすお休み処だったそうです。今でも甘酒屋と古い人は云っています。駒ヶ嶽の不動様を信心していましたので、寒になると法螺貝をふき、ノーマクサンマンドーと行者が寒参りに来しました。また白い着物に手甲、脚絆で頭に白い布をかぶり、団扇太鼓をたたいて南無妙法蓮華経と四、五人連れの信者も家々をまわっていました。

そのほかこういうこともありました。中田屋の筋向いに大榎があつて旅の女が男に刃物で追われ、大榎のまわりをぐるぐると逃げ廻わつて巡査や大勢の野次馬がいたにもかゝらず助けることも出来ずに殺されました。そして男も榎に刃物をたて、それに体当たりして死んだといい、縁起が悪いといつて切り倒したそうです。

思い出すままに書きつらねてまいりましたが、以前木曾の妻籠に行った時の事でした。「いこまや」を右に、前方を見ると、どこかで見た町並だ。あゝ、私の子供の頃の松原だ。一瞬、昔の松原の情景が目奥に浮かび上り、なつかしい思いをした事があります。

どうぞ皆様も妻籠に行ったら松原も六十年前は、こうだったんだと見て来て下さい。
半世紀で、ずい分変わりました。